

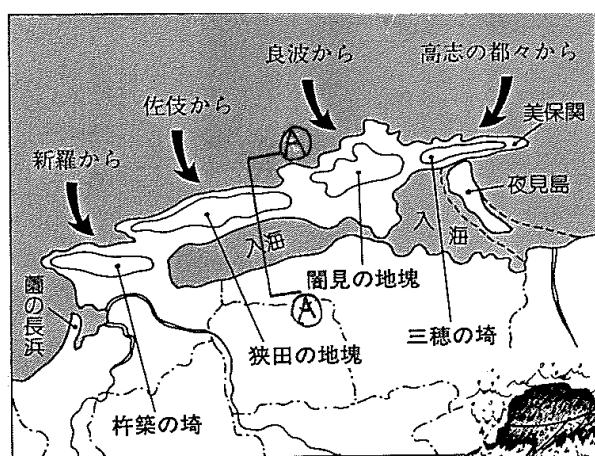
国引き神話の意味するもの

藤井 三千勇

出雲神話の中でも最もダイナミックでスケールの大きい話は国引き神話である。

出雲の国は土地が狭いので、四つの国から余った土地を引っ張ってきてつなぎ合わせて島根半島を作ったのだと云う。

一つは韓国の新羅の岬から、また一つには越のスズの国から、これは能登半島にある珠洲（すず）市付近と考えられる。



国引き要図。島根半島と引き寄せられたという他国の土地

出雲国風土記 ザ・出雲研究編より



こども出雲国風土記 川島英美子より

この様に島根半島を作ることによって、この島根半島と中国山地との間に出雲と松江を含む平野が出来、人が住むことが出来て稲作が始まり文明が生まれたのである。

これを地質的に見ると図-1の通りである。左図は出雲平野を南北に切った模式断面図であり、右図はその海水面変動を対比させた図である。

即ち、15,000年前に海水面の最も低下した時に中国山地と島根半島との間に深い谷が出来、その川底には礫が堆積し大社方面に流れ海に注いでいた。

南北方向断面図

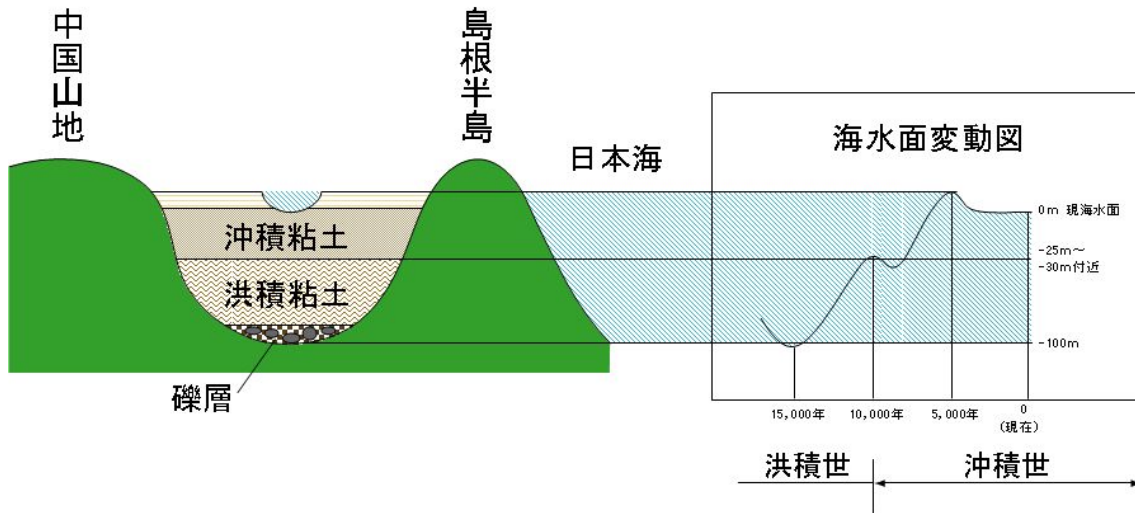


図-1

海水位が上昇していく時にこの谷は海水が入り込んで、非常に静かな内海となり細粒の粘土が堆積していった。

5,000年程前に海水位は約100m上昇し粘土は厚く堆積した。この海水位上昇は縄文の海進と呼ばれている。

5,000年前から現在は海水位が5~10m低下し、そのために海の底であった土地が水面上に現れ、現在の平野が出来たのである。

もし島根半島がなければ中国山地はいきなり日本海に接し、今の島根半島の海側の様に切り立った崖のリアス式海岸となっていたであろう。島根半島があったおかげで、この平野が出来たのである。

国引神話はまさにこの島根半島のおかげで、我々が豊かに生活出来ることに対する感謝の気持ちから、神がこの島根半島をよそから引っ張ってきて作ったという話となったものと考えられる。現代に生きる我々は、島根半島のおかげでこの豊かな土地があることを意識したことがあるだろうか。

私は古代人がこれらの地質的な理由を少なくとも現代人よりはその本質をよく理解しているが故にこの島根半島を作った神に感謝し、この物語が出来たものと考えられる。

そしてこの話はよりリアルに人間的に作られており、生き生きとした人間性にあふれる物語となっている。

この国引神話の一節を紹介する。(出雲国風土記参究 加藤義成著)

新羅の岬を土地の余りがありはしないかと思えば、土地の余りがあると仰せられて処

女（おとめ）の胸の如く幅広い大鋤をお持ちになり、大魚の鰓（あぎと）を切り離すが如くその土地をぐさと断ち切り、割り離して三様（みつより）になった強い綱を掛け霜枯れたつづらを手繰り寄せるように手繰り寄せ繰り寄せ、河船を引くようにもそろもそろと引きずり寄せながら「国来い、国来い」と云って引き寄せ来て・・・・・・・・。

国引きを終えた八束水臣津野命は「今は国引きおえつ」と詔りたまひて意宇柱に御杖を衝き立てて「意恵」と詔りたまひき。故に意宇と云う。

なお参考までに 10,000 年前に上昇している海水位が一時期下がり、しばらくして又上昇しているがこの下がった状況は現在と酷似し、今より 25m程下がった所で平野が出来ていたものと考えられる。

その時は海水面より上がった土は重量が例えば 1.4 t/m^3 とすれば、その下の粘土には $1.0 \times h$ (水面上の土の厚さ) の載荷重を加えたことになり、いわゆる洪積粘土は $N=3 \sim 5$ 回と硬くなっているのである。